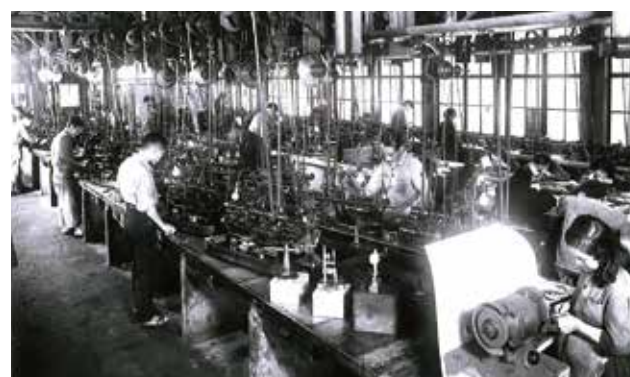




01 「技術のシチズン」を体現する工作機械事業

シチズングループは、「国産の時計を一から製造したい」という創業者らの思いを実現するための技術や機械の研究所に端を発します。ここで生まれた生産技術を礎に「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念のもと時計事業が世界中のお客様のニーズを捉えながら高度化し発展。これに牽引されるかたちで生産技術も進化しその一部である「自動旋盤」が外販され事業が確立。その後、精密組ヤスリ製造に端を発し、同じくその生産技術を進化させたミヤノと合併し現在のシチズンマシナリーとなっています。「自動旋盤」の進化は、お客様の「精密・複雑な部品を効率的に沢山作りたい」という思いにシチズンマシナリーが真摯に向き合い、その実現のため

にお客様と切磋琢磨した中で培った技術の蓄積です。また、それを更に発展するために新しい機械や技術が生まれるという技術のスパイラルアップの追求ともいえます。



昭和20年代初期の田無製造所の様子

02 工作機械事業におけるサステナビリティ

シチズンマシナリーの母体であるシチズン時計は、時計を介して個人の暮らしや心を豊かにしています。

工作機械事業では、CITIZENブランドを支えるそのような文化を、機械の使い手であるお客様一人

ひとりを思うことで大切にし、1990年に「有人化工場」、2001年に「感動価値」生産と、工場で働く“人”と機械の本分である“生産性”の両方に焦点をあて、考え続けることをコンセプトとして掲げ、事業を推進してきました。

グローバル化と情報化が進展し世界がひとつのマーケットとして繋がりつつある21世紀は、お客様のニーズも多様化し、ものづくりには、個性化と量産の効率化を両立することが求められています。現在

は、過去のコンセプトに積み上げるかたちで、新たな事業コンセプト『個の量産』～いろんな一つを、たくさんつくる～を掲げ、この新しい時代を切り拓く方向性を明らかにして、新たな製品とサービスを提供しています。シチズンマシナリーは常に、技術革新で新たな市場ニーズに応え、働きやすさと、その時代に呼応した高生産性の両立を実現し、シチズングループの掲げる「サステナブル経営」を推進したいと考えています。

工作機械事業が貢献するSDGsとターゲット

SDGs	SDGsの達成に向けて取り組むターゲット	
	8.2	高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上およびイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。
	9.4	2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術および環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。

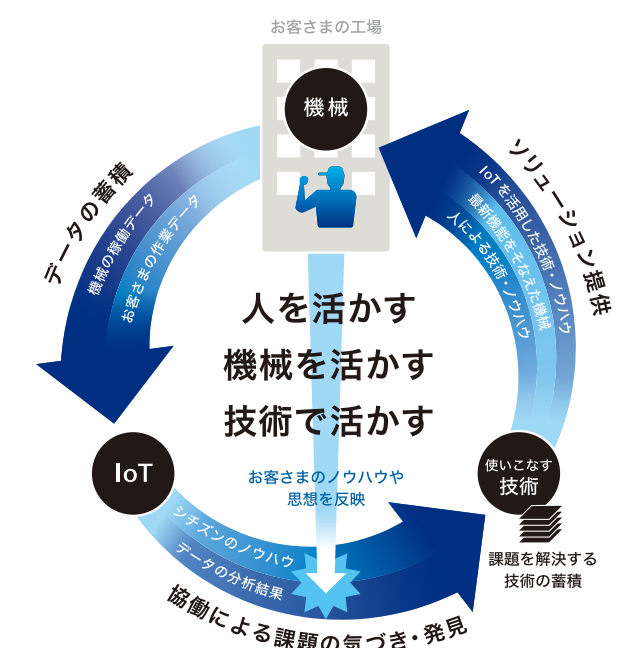
03 工作機械事業が提供する新たな価値

2020年は、新型コロナウイルス感染症の拡大によりあらゆる活動が制限される中で、ICT・IoTの活用が加速度的に進歩しました。このように世界中で内在していた課題がコロナ禍をきっかけに顕在化し、様々な面で時代が大きく変わりつつあります。しかし、こういった中でも、シチズンマシナリーのコンセプト『個の量産』の方向性には変わりはありません。付加価値を生み出す「機械」を主役とし、「IoT」、「使いこなす技術」の3つを提供すると同時に、これらが三位一体となるようにループ状に繋げ、そのループを力強くドライブし、人と機械を活性化するためのトータルソリューションを絶え間なく提供し続けます。

このループにある「IoT」とソリューションの提供手段を、ICTを利用したソリューションサービスであるalkappliesolution（アルカプリソリューション）で進化させ、「使いこなす技術」として、今まで解決が困難だった切りくず対策にはLFV（低周波振動切削）技術、残材削減には摩擦接合技術、刃物搭載本数の限界にはATC（自動工具交換装置）技術で対応する

など新たな技術を加えることで、革新的なモノづくりの実現を通して、お客様の安心と成長、そして世界中の製造業の発展に貢献し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを続けてまいります。

シチズンマシナリーの3つの役割



※シチズンマシナリーのalkappliesolutionやものづくりのコンセプトなどの詳細についてはこちらをご参照ください。
<https://cmj.citizen.co.jp/product/concept/>